

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102491		
法人名	社会法人みどり福祉会		
事業所名	グループホーム北山		
所在地	岐阜市北山1-15-25		
自己評価作成日	平成27年7月22日	評価結果市町村受理日	平成27年10月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiyosyoCd=2170102491-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年8月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設に地域の方を招く事に、力を入れている。ホームの夏祭り、新年会にご家族、地域の民生委員さん、自治会役員の方に、声掛けさせて頂いている。音楽ボランティアでフルート演奏が行われるが、演奏を地域の方にも聞いて頂く為声掛けしている。出来る限り外に出掛けて頂けるように、近隣の散歩や、地域主催のほっとサロン、地域の夏祭り、喫茶店等少人数ですが、出掛けている。身体、精神的に低下して行く中、出来る事が継続出来る様に、家事仕事を中心に行って頂き生活している。個人個人の思いを尊重しながら、集団生活を生かして、ゲームや百人一首等を楽しんで頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の病院を中心に、同法人の診療所、訪問看護ステーション等が立ち並び、その中のケアハウス1階にホームがある。裏には、国道が走り、周辺は大手スーパーマーケットやドラッグストア、地域の人達が集う喫茶店、飲食店などがあり、便利な場所である。地域住民の往来も多く、公民館で行われる社会福祉協議会主催の催し物にも、徒歩で参加できる距離にあり、ここでは馴染みの人との再会や、新しい関係が築かれている。また、利用者が、その他の地域行事への参加したり、地域住民をホームのイベントに誘うなど、地域と活発に交流している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事に参加させて頂いたり、地域の方に来て頂けるように継続している。運営推進会議で、助言を頂き、更なる進展に繋がるように努めている。	ホーム独自の理念として「入居者、職員が本音で付き合える関係作り」を掲げている。管理者は、介護に対する思いを職員全員に周知させ、常に同じ方向を向いた介護を提供できるよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のほっとサロン、食事会、運動会、夏祭り、避難訓練に参加させて頂いている。月2回ボランティアの音楽会を開催している。	社会福祉協議会主催の北山サロンや、生協主催の食事会、音楽ボランティアのハーモニカ・フルート演奏が毎月あり、地域の人にも呼びかけ、利用者と一緒に楽しむ交流の機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方にもホームの音楽会に、来て戴けるように勤めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護保険課の方に、他施設の情報を教えて頂いたり、民生委員さんから、地域の情報を頂いたりして行事参加の進展に繋げている。	2ヶ月に一度開催し、利用者や家族、市、自治会、民生委員等の出席がある。1時間程度の会議形式で行い、自治会からは住民の高齢化の様子などの報告がある。ホームが介護情報の発信地となる様に期待されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	解らない事等、電話で相談させて頂いたり、運営推進時に、情報を頂いたりして、連携に努めている。	生活保護受給者である利用者の事務手続きや、対応等のアドバイスを市担当者から受けている。また、利用者全員が住民票をホームに移しており、郵便物など多くの書類が届き、ホームが市と調整の上、管理している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的には行わない。どうしても必要時は、職員全員で話し合い、必要のある場合は、家族の了承を得て、アセスメントしながら、無くす方向に繋げている。	身体拘束に関する勉強会を、定期的に行っている。国道に面する非常口のみ施錠し、それ以外は日中の施錠は無く、玄関センサーも設置していない。転倒リスクの高い利用者に対してのみ、起き上がりが分かるセンサーマットを1箇所設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	岐阜民医連の学習会デ、年1回開催されているものに職員が参加。人権尊重の為、やってはいけない事を、職員に周知している。		

岐阜県 グループホーム北山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	岐阜民医連の学習会で年1回学び、必要な方があれば支援方法を相談し、情報を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず説明と同意を頂いてから、対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の方に、投書箱の確認をお願いしている。家族アンケートを行い、貴重な意見を頂き、改善点是对応出来るように努めている。	3ヶ月に一度、家族に介護・看護記録の報告が行われている。報告書の最後に、家族の声を記入するスペースを設けている。また、家族の面会時には、積極的に話しかけ、意見・要望を聞き、全体で把握し、共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で職員の意見聞いて、話し合いをしている。出された意見を管理者に報告したり、労働組合で交渉して対応している。	法人に組合組織があり、職員体制についての話し合いで、パート職の勤務時間を見直し、より働きやすい職場となっている。また職員の希望で、専門医の研修会に参加し、様々な疾患を持つ利用者への理解や、対応方法を学び、職員間で共有し、ケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員会議や個別面接、労働組合との交渉を通じて、少しでも向上心を持って、働ける職場作りをを目指している。働き甲斐レポートを作成し職員で取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回開催される岐阜民医連の学習会への参加を通じ、力量アップや介護職員同士の交流を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜民医連内の介護交流集会や外部研修や、GH協議会の会議等に参加させて頂き、他事業所の方と交流を図り、情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が無理な場合は、ご家族から生活歴を中心に情報を頂き、少しでも穏やかに生活出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここまで見て来られたご家族の思いをきちんと労い、その中で対応に苦慮した事等を、話して下さるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	外部のサービスが必要な場合は、ご家族に情報をお伝えして、今後サービス活用に繋げていっか相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る力をなるべく継続して頂けるように、支援し、職員間で話し合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なるべくご家族と一緒に時間を過ごして頂けるように、ホームに来て頂いたり、電話で状況をお伝えして、安心して頂けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にお願いして出掛けて頂いたり、他のサービスにお願いして対応出来る関係作りをしている。	遠方への外出は家族の協力を得ている。地域の「ふれあいいきいきサロン」に参加することで、顔見知りの人との再会もある。また地域の防災訓練への参加も毎年継続し、関係性を維持している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月職員会を行い、利用者の状況について個々の関係で孤立しないように、職員の対応を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され契約が終了した後でも、ホームで協力できる事があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話や出来る事が、少しでも継続出来る様に、プラン内容に反映し、話し合いを行っている。	読書が好きな人には、他の利用者への読み聞かせを促したり、外出が好きな人には、食材購入の買い物に同行してもらうなど、利用者の希望や意向を把握し、その実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に、ご本人様の生活歴を把握して、生活環境を継続出来る様に、話し合いを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事仕事、散歩等の運動、字を記入する事等出来る事を、出来るだけやって頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントや職員の意見、ご家族の思い、ケア内容を評価して、その中でプランを作成している。	介護計画は、担当職員や訪問看護師、往診の医師など、多職種の意見を取り入れて作成している。本人の様子は職員がしっかりと把握し、その内容を報告し、計画作成担当者を中心に、より良いケアプランとなる様、努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録を記入して、ケア内容の評価判断に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内で対応出来るご本人、ご家族のニーズは、職員間で検討し対応に努めたり、その他のサービスで対応出来る情報があれば、相談しながら対応している。		

岐阜県 グループホーム北山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーへの買い物に、職員と一緒に出掛けたり、また地域の食事会等、楽しみにされているので、多くの方に参加して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が何処で受診をして頂くか判断している。対応出来ない場合は往診で、対応している。	殆どの利用者は、協力医がかかりつけ医となっているが、利用者や家族の希望で、他のかかりつけ医に受診する人もある。月2回の往診と訪問看護の医療連携体制がある。透析や在宅酸素の必要な医療度の高い利用者も、適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に、訪問看護に来て頂いて、状況を把握して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関と連携をきちんと取って対応している。相談もきちんと対応して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には、終末期に関して事前にホームで、何処まで対応出来るかを、お話しし、その中で医療機関なのか、他施設なのか、ホームで対応するのかを、ご家族、医療機関との話し合いを持って対応している。	終末期の支援については、入居時に、家族に納得のゆく説明を行なっている。ホームで対応できるぎりぎりまで過ごしてもらい、最後は病院を希望する家族には、迅速な対応を行っている。これまでに1件の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員の指導で年1回、救急救命蘇生の方法を学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ケアハウスとの合同で消防訓練は年2回開催している。1回は地震と火災発生訓練、1回は夜間火災発生想定で地元自治会の協力を得て実施した。また地元自治会主催の防災訓練に、利用者と職員が参加した。個々利用者の移動方法を書面にて、職員室に添付している。	年2回、夜間や地震、火災を想定した防災訓練を同法人のケアハウスと合同で実施している。災害時のヘルメット、懐中電灯、ラジオ等の備品や、排泄用品の備蓄はあるが、食料等の備えは無い。	避難時の持ち物や、利用者の投薬情報の確認と、緊急時に必要な物品リストを作成し、保管場所の周知を図り、職員全員が災害時に落ち着いて、適切な対応ができるような取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で尊重して対応出来る様に、努めている。職員が対応に詰まる時は、職員間で交代しながら、また穏やかに対応できる様に、努めている。	職員は、利用者が得意とすることを、チャレンジしやすいように言葉かけをし、その人の行動ペースを崩さない対応を心掛けている。一部の職員に、慣れ合い的な言葉遣いになる場面もある。	職員と利用者の気心知れた関係が、慣れ合い的な言葉遣いになることもあるが、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応の取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらから声掛けして、出来る事は、やって頂いている。強制しないようにしている。自発的に出来る方は、自由にやって頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の対応が増えてきている支援の中で、職員の動きが優先してしまう部分もある。職員会議で話し合いを持ち、時間が少しでも取れるように、週2回は、入浴日をなくし、ゆっくりお話を聞いたり、散歩に出掛けたり、気分転換して頂けるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や、整髪等、身だしなみに気を付けている方は、自由に頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好品や、嫌いな物を把握して、苦手な物の時は、パンを食べて頂いたり、うどん等の麺類を食べて頂いている。	昼食はケアハウスで作られた献立を、利用者と一緒に取りに行き、配膳している。朝、夕は買い置きの食材を見て、利用者の食べたいものを聞き、調理している。利用者は能力に応じ、後片付けなど、できることに関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や栄養面が少ない方は、ココア、ロールケーキ、プリン、ようかん等個々に、摂りやすい物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、出来ていない。就寝前には、介助したり、声掛け、見守りしながら口腔ケアを行っている。		

岐阜県 グループホーム北山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄出来る方は、チェック表に記入して定期的に誘導している。また夜間帯は、ポータブルトイレを利用して頂いている。	入居当初より、排泄に著しい変化は無く、そのまま維持されている。夜間はポータブルトイレの設置など、利用者の能力に応じ支援している。利用者全員が、下剤の服用は無く、状態に応じ浣腸や坐薬で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	炊飯時に寒天を入れて、繊維質を多くしたり、成分摂取の声掛け、歩く事等の運動して頂き、対応している。無理な方は薬で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後に入浴を行い、毎回入る方、一日おき、二日おき方と個々の思い、状態に合わせて、対応している。	利用者の希望に応じ、毎日でも入浴できる体制がある。入浴することがめんどくさく拒まれる人には、無理強いせず、上手な声かけやタイミングで対応し、利用者は身綺麗にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆さまのペースで休んで頂いている。昼寝をされたり、夜間眠れない方は、職員室まで来られて、飲み物を飲んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りノートに変化があった時は、記入している。その他は、毎回往診時処方箋を頂くので、ファイルに閉じて、閲覧出来る様にしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活状況によって、出来る事をやって頂いている。こちらの支援が必要な方は、一緒に家事仕事や散歩、外出して気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に出掛けたり、ご家族と一緒に出掛けて頂いている。	天気の良い日は、散歩で近くの川を一周し、季節の移ろいを感じている。暑い時期は、玄関先の水撒きが日課である。週2回は、食材の買い物に出かけ、毎月、いきいきサロンや食事会など外出の機会が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額でもお金を管理出来る方は、ご家族と相談して持っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をしたい方は、ホームから掛けて頂いている。年賀状等節目に出される方の、支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自然な物を取り入れて、花など飾って季節感を出せるように努めている。周囲は出来るだけ、みどりを多く取り入れている。	リビングから街路樹の緑を眺めることができたり、室内に植木鉢を置き、安らぐ環境を作っている。リビングや廊下は広く、テーブルとイスがゆったり配置されており、畳コーナーには仏壇が置かれ、落ち着いた空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチを置くことで、外の空気を吸って頂いたり、ソファで一人座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を、自由に部屋へ持って来て頂いている。	部屋は和室・洋室があり、テレビや昭和を感じる書棚、仏壇、家族写真、手作りの装飾品等を利用者の好みで配置し、それぞれ個性ある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせて、簡易手すりを使用したり、怪我のないように、家具材を保護したり、個々の自立した生活に努めている。		